

統一地方選挙結果について

東日本大震災の影響で有権者の関心が高まらない選挙戦となった。民主党は政権与党として初めてとなる統一地方選挙で、京都府議会では健闘したが、全国的に見れば民自対決の知事選で全敗するなど厳しい審判となったのは、菅政権の運営能力や危機管理能力に対する有権者の不信感の表れといえる。

また、京都市議選で京都党が4議席を獲得したように、大阪維新の会や減税日本など地域政党の躍進が目立ったのは、地域事情は異なるにせよ、既成政党に対する不満が高まっている証拠だろう。有権者は、国政と連動した政党政治ではなく、地域主体の独自の方向性を指し示す強いリーダーを求めているのではないか。

いずれにせよ大震災の影響が長期にわたり続く中で、オール京都による震災の復興への取組み、地域の安心・安全にかかわる防災確保が必要となるが、地域主権型社会の構築に向け、地方議会や行政の果たす役割がいよいよ重要となってくる。

平成23年4月11日

京都商工会議所
会頭 立石 義雄